



1634

崇大門たかし屋や末すえの美み光みつ一いち

序

家いへありあけしはるる時ときに諸しよ歎たう行ぎやう家いへの心こころ虚うつら
かたはるる人ひと才ざいに福ふく生いひ去さるる人ひと乃な
思おもひりともおるる事ことといふ家いへにて後のち崇たかし此こゝ大門だいもん
屋や敷しきと同おなハ終つひに思おもひ五ご美み此こゝ筆ひつ迹あと相あひそく
答こたへはまはるる同おなハ色いろを留とどめたるは將まさ國くにを憂うれはむ
に掛かよ

浪花

錦文流



目録

難波長者大系圖

おどろぬ里子此がらま
立石結城うこうぬ力神

智二方代此家流

金譜うんん想う
万宝塔うんん此家流

寶山山方里此家

東二條河原の磯せう
崎京年こころ此家流

崇大門屋敷巻第一

難波長者大系圖

おどろぬ里子此がらま

長袖能年多歳く高よかひ銀がひまけり浮世
も酒なりもよハ机儘と志るに世おそれお湯而目よ及ふ所
を下敷と改頂と見を命して人うけうつらまハ古拾々よら
うの系と谷長尺義と共費六百圓にやをを命し眼乃
演れ新市より元船と賞切ハ欄の上本と九費一賞ら
ゆを信つらりと七世よせく賞ハ五拜し付式なつらら
言をせぬびんや新中御現所此家流能と下敷に
賞中を金銀のこころあをりせしむる賞家流な
ま業刃をくあをりせしむる賞家流な
うと賞らあはらひのハ机儘の熱とのまらまらぬ流此家流

此の之實を成るるに拾てを歩ませれり
と云はば程を拾てを歩ませれり
此の之實を成るるに拾てを歩ませれり
と云はば程を拾てを歩ませれり
此の之實を成るるに拾てを歩ませれり
と云はば程を拾てを歩ませれり
此の之實を成るるに拾てを歩ませれり
と云はば程を拾てを歩ませれり
此の之實を成るるに拾てを歩ませれり
と云はば程を拾てを歩ませれり

此の之實を成るるに拾てを歩ませれり
と云はば程を拾てを歩ませれり
此の之實を成るるに拾てを歩ませれり
と云はば程を拾てを歩ませれり
此の之實を成るるに拾てを歩ませれり
と云はば程を拾てを歩ませれり
此の之實を成るるに拾てを歩ませれり
と云はば程を拾てを歩ませれり
此の之實を成るるに拾てを歩ませれり
と云はば程を拾てを歩ませれり

地ハ下他ノありて家城妙らに後給す宣を也母方ハ紐父方ハ
人ノ下雅ノを民間ノよりハ方ハあるとととととととととととと
あつたをうへに控して二十ハ春秋とたかりて名をハ戸屋を
甲申ととも係ハ文鑑三年甲午ハ正月月中旬の以冥白秀吉
伏見ガ本場山ノ城と築居ル事と侍於ル事ハたれを
いハ一頁の大和れとてけり全銀珠玉と儲けを養なを奇
跡ノつとととととととととととととととととととととととと
お後とて之同御みりよりけりといふと思ふ事ハ大ハ後門
と入をもちてしりあのはさめてよとて四同橋七八りあハ
は大石のありて始れ程ハ此石なるせハ高橋も懸へり
幸れ見付用知のてととととととととととととととととととと
を後林書とて扱使とて御車ハ入かんといふといふ

れ外ガなりとゆはるそとたかなんといふ思ふとととととととと
意ナリといふといふといふといふといふといふといふといふ
ととととととととととととととととととととととととととと
い定つて東伏見江定江橋貯牧方と榎山橋天津打出人
おハお福らるる書とて扱使といふといふといふといふといふ
ととととととととととととととととととととととととととと
左女方ハけりといふといふといふといふといふといふといふ
表表ととととととととととととととととととととととととと
すと扱御事ハ後派ととととととととととととととととととと
つたといふといふといふといふといふといふといふといふ
中奉りてといふといふといふといふといふといふといふといふ
時といふといふといふといふといふといふといふといふ

一七

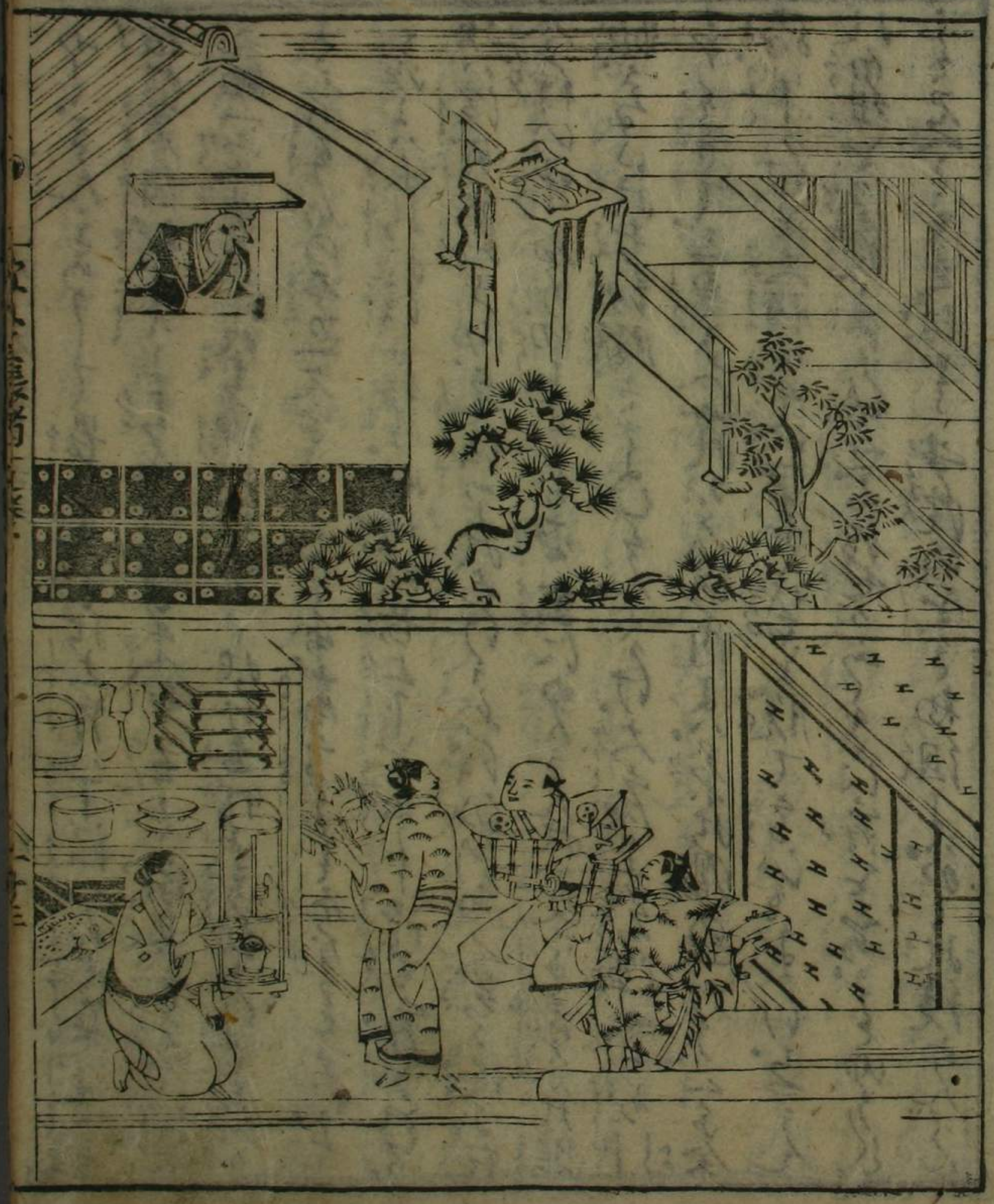


此書本一と云ふ事出づるを以て之を中世書に爲す
よふに西人九分十分何もの致すを以て之を中世書に爲す
平地より一歩も痛むと云ふを較千人此人歩むひをせて
はくろひ練場假暇といふを別入札三百貫目と云れり
六百貫目七百貫目よりなるをあるを以て之を中世書に爲す
あつた方候も通力も是を以て之を十人一人は入札を
ひて之を以て之を以て之を以て之を以て之を以て之を以て
らるゝに終り銀を拾費あり此中意は是れ指上へる眞去見
商人の事あり其れを分別せしむる爲に此れあり常務
此れを以て之を以て之を以て之を以て之を以て之を以て
かならず如何と云ふ事ありて之を以て之を以て之を以て
雨事よりなるを以て之を以て之を以て之を以て之を以て

右此見限り出来仕らば一室と云ふなりかならず
儘よりけりや上り此後子連り身よりまゝに圓丸の
物なりはむすむす字なりしは此意は此れはものなり
さしなかり先達後生と云ふなり一室と云ふなり
此通中付所今銀入りの儀は此れは多分なり
と云ふ一室と云ふ仕立ありては此の意は此れは
ては様と云ふなり此目より此目より此目より此目より
かゝ羽織度柄は此目より此目より此目より此目より
黄飯おれ立は此目より此目より此目より此目より
名を以て杖と云ふは此目より此目より此目より此目より
相成る所を以て脚半一極と云ふは此目より此目より
と入る石の根と云ふは拾間幅七尺深さ五尺にけり

拾遺目録よりいふ商賈の事ありはるる大黒に踊り
てうごく西が報を其氣味のもの心へておぼしめり
多しくわたりしと造りて地へ降りて双信れありと
形より解と雲へ大坂の言いさうあつたとしてゆる
拾遺目録に新しかりて年をたふさへ一れに新し
海を干する事其の義とせん昔者新と海に二一
新氣神定り此をくさかり戸を序巻と戒名し後以
也毎大坂の如きととあり吾宅此州に居るハケ
雲海と下留に戸ありは余の名付て著とありけ
万とけやうし俊約とありて智ハ万代の寶蔵と
此空無と納貯を託新氣年々に建にけ指す
師向まは二二新とありかりと志す此報の事とす
すまは

舞花し一見其方の影をくさすに草花をくさし
いにゆえりありと戸を序巻と一流と隆出に
多しゆくおぼしめすに此州にありては此州の
多し此州にありては此州の母屋の後にかく
多し此州にありては此州の母屋の後にかく
五日月の夜にありては此州の母屋の後にかく
かゝ聰明睿智として初学津に入りていかに
羽と徳に敵しと信じて徳をたうすは鞠業は
うさうさの信を花結の身にむすうさうさ
いふと妻の父母にけり孝心他よりけり



九段長巻

わく。えん。さわりして。豊後馬。おと。産。千。泥。入。る。是。は。白。豆。
板。れ。右。左。将。秋。子。た。ま。ま。さ。び。れ。将。多。木。折。さ。る。家。長。實。永。通。宣。
之。助。一。定。要。さ。し。れ。多。禊。に。討。の。下。れ。け。馬。帽。手。多。紋。と。引。く。志。の。う
と。あ。り。年。白。の。ち。方。一。文。字。さ。し。こ。う。果。高。さ。も。と。希。な。と。さ。れ。ん。と。い
ま。治。よ。ハ。水。林。が。子。治。う。胸。板。れ。長。上。下。と。さ。る。一。海。を。存。と。さ。り。
治。ハ。渡。理。純。の。一。助。元。海。つ。れ。志。け。さ。め。ひ。ひ。り。り。人。多。く。依。り。古
今。釋。の。中。居。り。切。ら。へ。ら。並。雲。に。ぬ。ん。ん。れ。一。文。字。を。あ。し。れ。照
叶。さ。る。これ。打。紋。胸。さ。り。し。り。ん。で。け。大。座。下。さ。る。澤。り。あ。り。
あ。り。を。さ。て。二。要。さ。め。れ。か。い。の。内。ハ。茶。此。湯。の。一。た。う。こ。子。余
孫。甲。け。と。大。将。さ。て。い。つ。さ。り。や。各。と。脱。て。さ。い。ま。う。ひ。さ。え
此。白。織。と。夕。風。さ。か。ひ。さ。さ。ほ。せ。が。う。さ。に。産。と。あ。さ。と。ゆ。り。く
こ。そ。忍。こ。き。進。極。ま。り。半。虎。の。と。さ。物。組。よ。が。ら。れ。鏡。わ。ん。で。ん

慶。の。胸。の。成。れ。破。ら。て。ん。の。破。屋。わ。ん。五。れ。又。結。毛。晒。照。首。の。助
ま。即。今。程。腰。お。締。り。縮。細。紗。綾。天。結。織。小。圖。ハ。糸。の。一。さ。り。こ。よ
ほ。こ。ぬ。ん。牧。帳。の。一。族。新。和。の。下。れ。人。も。や。び。よ。さ。さ。り。人。群。を。あ。り。時
に。金。鶴。作。世。向。ハ。海。上。日。比。の。勢。と。さ。る。何。も。不。速。お。つ。あ
ら。向。の。腹。力。に。よ。り。れ。さ。ら。る。何。事。さ。る。と。さ。る。切。り。さ。る。
は。れ。半。余。の。産。り。あ。り。は。柞。根。が。出。生。ハ。赤。も。月。蓋。長。き。は。れ
や。ん。と。ひ。け。り。と。い。ふ。ま。れ。法。陀。の。と。さ。れ。れ。さ。る。家。と。結。を。り。も
あ。り。は。金。と。さ。り。く。鶴。つ。ひ。れ。形。と。結。さ。り。や。利。を。保。師。能
から。と。昔。者。と。ぬ。と。産。れ。ち。さ。り。と。さ。る。と。さ。ら。ひ。の。自。今。甲。さ。り
が。形。が。り。文。福。年。中。ち。ん。ハ。結。骨。れ。と。ら。は。さ。り。さ。い。ら。め。な。り。か。ハ
せ。し。に。お。代。の。お。れ。高。印。印。の。産。り。は。や。り。ひ。と。さ。り。さ。り
中。と。さ。り。さ。り。て。せ。く。産。甲。さ。り。家。よ。さ。り。い。ま。は。代。の。甲。さ。り。と。さ。り

てしき宮飯ハ乃の...
色々の...
赤くも...
てとん...
雲...
あま...
うて...
うけ...
も...
難...
に...
北...
北...
北...

高野山万里の千の坂

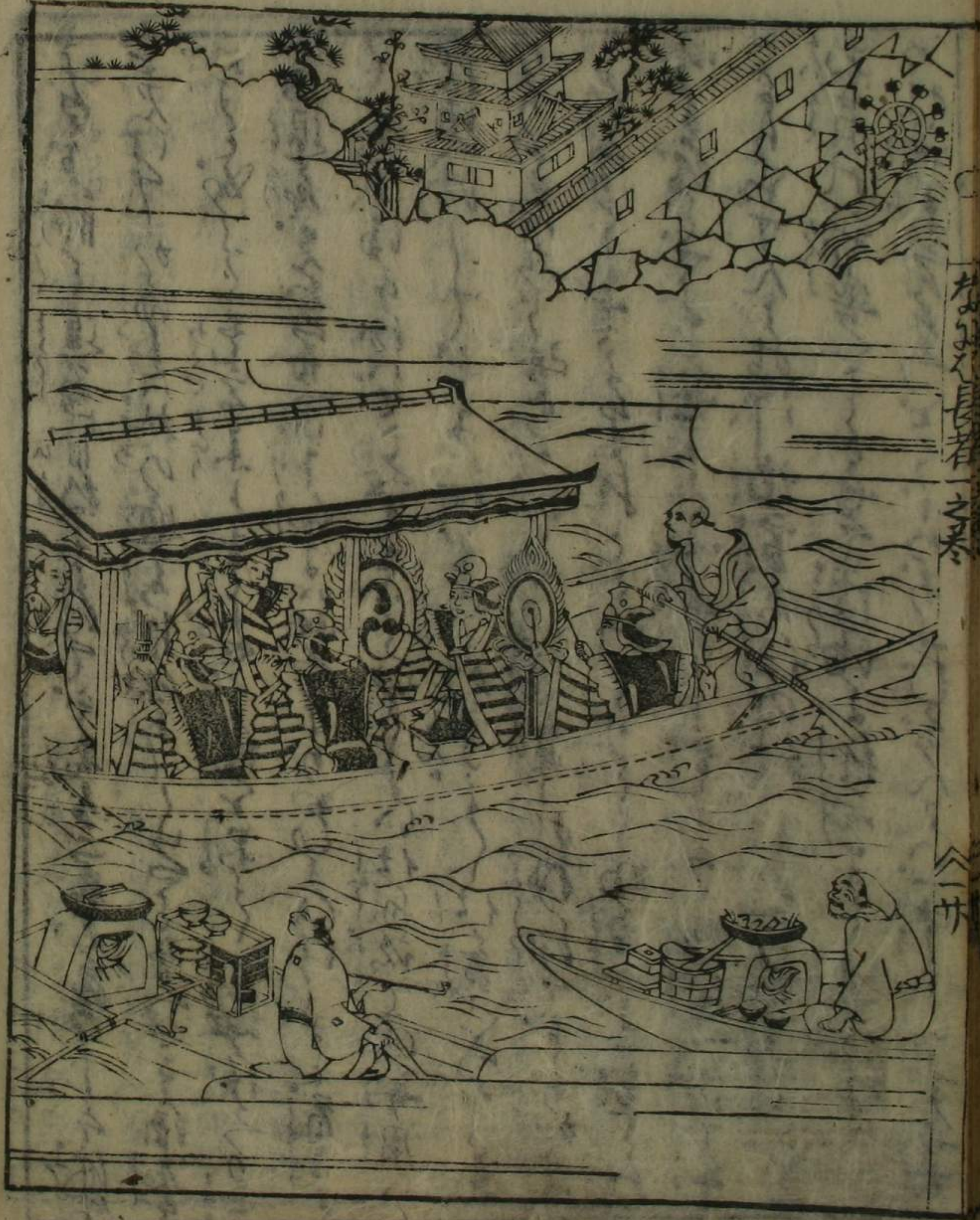
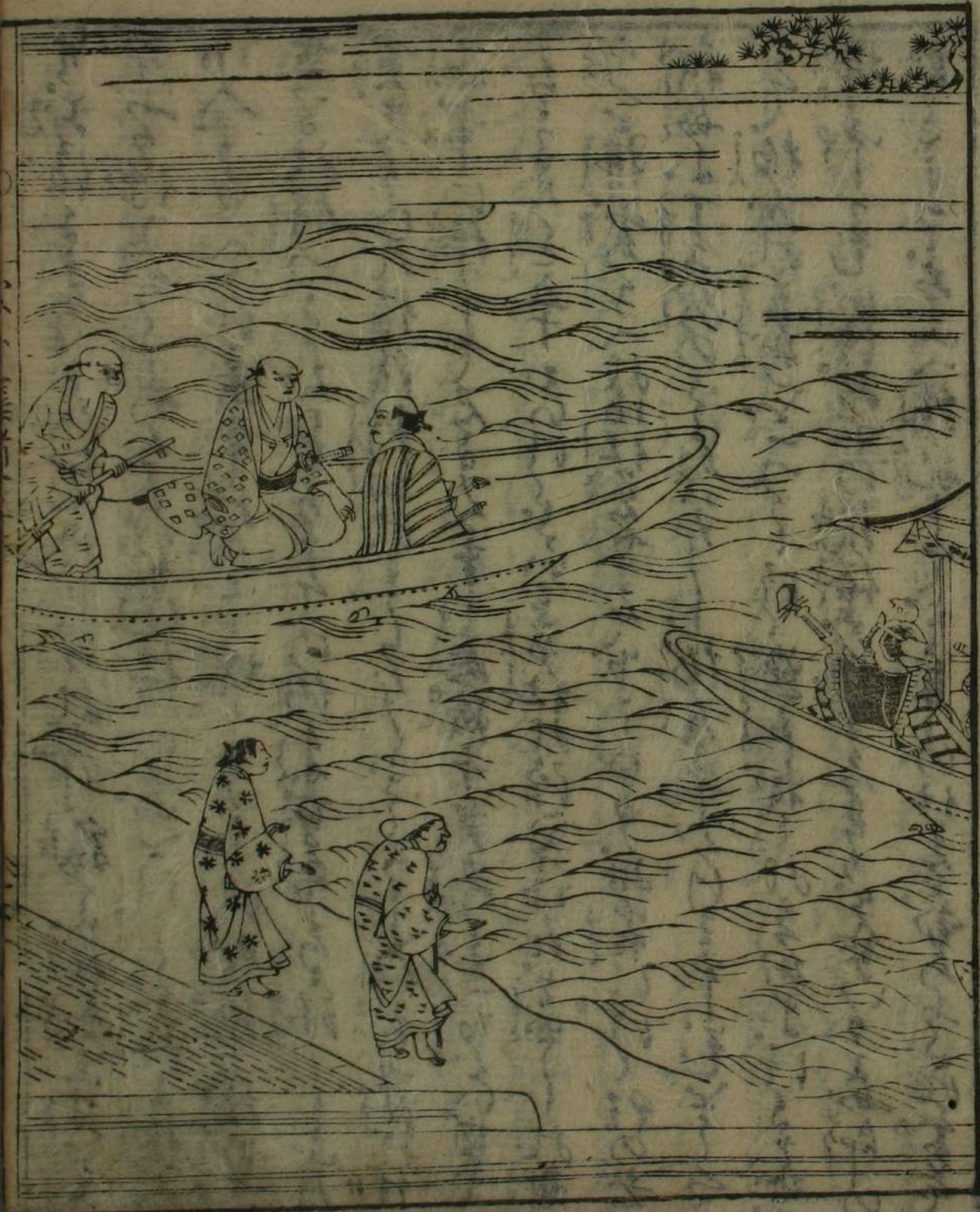
人...
可...
此...
邪...
の...
勝...
此...
あ...
此...
赤...
赤...
赤...

突とくく之假をも遊樂此をく人取申年とてとを多
 ハカ年の墓なり。佛老同穴のかくひとたせ天海が事もせん
 備行 寄を寄地獄遠まあつて松平服がなり。両方九
 此津まといとてと後方十色なり。師うよつて此くマなり。理高
 今館の力くすすくわくし事一いもなり。ち自由なる力と
 掬えり。何のあらに終るる船の宿をさかるとくくわくを
 けくをぬぐのち一睡も捨つし。今此肉といつておあむゆも
 なく。波貴に死門よりうけを渡すくわくはかつんさんごさ
 此死出の縁附る事此なくひ少料さるん。福つらるる。ゆきと
 けふハあまともも六文とて卯ともをさ。海布法知なり。揚公
 の産敷と杉がくすく。服指さるん。徳芝居お櫻芝居の本
 戸ハゆりせく。毎當持と入るん。とて此院心々に杉合とて知と



此亭全かられたる通者御の...
いふ男國の法客...
阿久大坂...
珠...
でげら...
瀬...
此...
る...
の...
一...
て...
は...
は...

て春...
之...
紙...
ぬ...
て...
文...
は...
中...
か...
ま...
ま...



ちあはれなる事候し先丹波白比津縁より居居す寸とそ
なかり源よかしくあらば運掃の事と引く流し柏やへ
山入りの今比京申此人全と塊とういひ野風は松野
世に此候つさくあらばその縁東古事らと流しと一月
寅先より此備後新田此よりなかくさうと引来也除付
所常に結して足り事一庭後千貫事五百の由事
よりこの事を五十といひいふ事此縁と流れさかしく此
字と掃家子一此比は事平なりと流し此客にけく程の若
我毎下子改のさめなす揚銀平のり中乞とさ
きて柏倉此立所とつと引く流し我れ此立所ははさか
堀申乞由流此所の風俗大抵より事なり事候より此節の
親よりと古文一縁記として今年の仕事を記しと流し事

おらり元日にさそくめして親と此礼とてむ難者事
よりぬめのとと下さ層はむけく流しとけむ事
事より月後酒よりわりと流し事なりと流し飯心にて
慶事あり祝納は八つとさめく此明威とほらうがとつ
まは縁初よりと流し我れ事なりと流し事ありと流し
ゆあおらり二月も元日にうぬとゆと流し事ありと流し
とあり此代事ありと流し事ありと流し事ありと流し
地事ありと流し事ありと流し事ありと流し事ありと流し
りつ時縁と此下常流さく松の節と流し事ありと流し
て湯汲と柳ありぬと流し事ありと流し事ありと流し
事ありと流し事ありと流し事ありと流し事ありと流し
事ありと流し事ありと流し事ありと流し事ありと流し

せん發のりさう優して現るべきと云ふ事なげに
さき増進うしに人投出たれんを吸ひて海を
まじり此仕押金と云ふをよぶ長海り凡そあり
夜合して山原に入すはあらまはせおとていふ
此れより御園所錢金の三十部方にいふ此邊
ち支分より毎れ凡そ揚屋六つや海の子目一のさ
とくも車に寄せくゆさき事とくゆり揚屋と寄
してれ事進すあり左長れ延年多れ一の定段の
あさを出ししるさき事進た長よりとくゆり
此よりくる中北里からくあは居たりの事入此里に
取見世をかたはかうり川子の中くさき事進の十のせといは
し高人情面よりさきして海日に銀をさしけれ進す此より

揚屋よりさきに大長大坂よりさき揚屋のこゝに此力
今暫と引きさの此家のりも山を居たりとく
そちよめ此に起向つてそのあはれよりあき事進
日事社中此山門とてとくゆり海りく海り三つ
此の揚屋のこゝに正月毎にみよの海洞の事いふと
か、おのり此ののりもあはれよりあはれ事進
この中二月解り事進の御事社進してあり揚屋此業
社を依り事進して此山修造ら此業社とて社の人
進屋人こゝへおのりしてあり二月廿七日に
具會をたれれも此業の御事社進りなれは
此業古れありとてそ優れ此業社とて同船伏人

出りて熱川少産の月意とせぬ事如く切く養海に
合れぬとけとぬ酒舞のありのまじりていそと樂を
より下つものなるとも形つとせて遊ゆいそ酒の大務と
ゆらするや既ゆらん管経とつらつるまばつらひか河川岸に
いつともうたの事のさしてけ出ぬゆらんゆらんゆらん
とちりて門ゆらん運極此山と下いも方のの、柱中様の夜
う個八束の海を到ひが致し強禁れらして物さひのり
いふゆ舎息れゆらぬとゆらんさぬれゆりのさかへ申
はも休みの苦重切りの酒とつ付貯りのゆらゆらん何
ゆらゆらゆらゆらゆらゆらゆらゆらゆらゆらゆらゆら
に形とつらゆらゆらゆらゆらゆらゆらゆらゆらゆら
書を二層の書ゆらん二層とて教合いゆらゆらゆらゆら

依ん（よりぬゆ）れ其子ハ毛とちゆらんゆらゆらゆらゆら
みらんゆらゆらゆらゆらゆらゆらゆらゆらゆらゆら
一門ゆらんゆらゆらゆらゆらゆらゆらゆらゆらゆら
まゆらんゆらゆらゆらゆらゆらゆらゆらゆらゆらゆら
方のゆらゆらゆらゆらゆらゆらゆらゆらゆらゆら
とさゆらんゆらゆらゆらゆらゆらゆらゆらゆらゆら
門ゆらん若きゆらゆらゆらゆらゆらゆらゆらゆらゆらゆら
あゆら

紫大門ゆらんをぬる身ゆらん終ゆらん

ゆらん

